

ＪＡグループ鹿児島のめざす将来の姿

このような農業・地域・くらしをめぐる情勢を踏まえ、今大会議案において、以下の４つを、今後のＪＡグループ鹿児島のめざす将来の姿（１０年後）として提示します。

東日本大震災や国際協同組合年を契機としてＪＡの存在意義・使命を再認識したうえで、ＪＡグループ鹿児島は、めざす将来の姿を共有し、今後３か年で取り組むべき事項を主要施策として取りまとめ、実践することとします。

消費者に安心・安全な農畜産物を安定的に供給し、日本の食料基地として、わが国の食料自給に貢献している姿

農家所得の増大と指導強化による農家組合員の経営安定をはかりながら、新たな担い手も加わった多様な担い手とともに地域農業全体の活性化に貢献している姿

地域住民をつなぐゆるやかなネットワークが築かれ、助け合いや交流が活発化し、安心と心の豊かさを実感できる地域社会づくりに貢献している姿

ＪＡの魅力ある事業・活動を地域住民の多くが利用・参加し、地域住民の満足度が高まっている姿



改革・人材育成・結集

協同の思想

ＪＡは、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自律、参加、民主的運営、公正、連帯等）にもとづく農業と地域社会に根ざした協同組合組織として、自らの存在意義・使命を再確認し、組合員・地域住民から求められる役割を発揮します。